

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 27 年度第 3 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成 27 年 8 月 20 日(水) 14:00~16:30

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、伊藤委員、高岡委員、和田委員、金子委員、本村委員、松田アドバイザー
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

9 月開催の ICT 戦略大会の分科会「価値を創出させるデータ活用力の教育モデル」で新しいガイドラインを提示して意見交換するために、委員からガイドラインの案と当日の説明資料が提示され、以下のような意見があった。

- ・ 大会の分科会での説明案として、以前のガイドラインの振り返りから、小中高校までの情報教育とガイドラインとの対応を通じて説明していく。
- ・ ガイドラインに求められる視点として、質的転換、問題解決力の育成と価値創出、カリキュラムの体系化、学修成果の把握が考えられる。
- ・ 問題解決や価値創出のために到達目標 A を設定した。
- ・ 問題解決の枠組みについて高校までに育成した部分と大学生の問題解決として、問題の発見、問題提議・解決の方向性、解決方法の検索、結果の予測、振り返りなどの一連のプロセスを学ぶ必要がある。
- ・ プロセスの中には、仮説、推論、予測、価値の創造などの言葉を入れる必要がある。
- ・ 例えば、ルーブリックを利用し、そこに情報の抽出や組み合わせなど仮説をたてるレベルを記述するようにはどうか。
- ・ 授業例として、例えば、いじめをなくすことについて、省庁で統計データを公表しているものを利用したデータ解析など文系の学生にも対応できるものはないか。前半はみんなで行いその後各自でおこなわせるか。
- ・ ICT 戦略大会の分科会では、新ガイドラインの考え方や授業例を含めて説明することにした。

V. 委員会以降の対応

9 月の ICT 戦略大会の分科会で前回のガイドライン作成と今回のガイドライン作成の経緯を説明し、今回の提案内容が紹介され、授業の例も説明された。

当日の質問では、Office ソフトなどの学修時間や 15 回をイメージした授業例の希望があった。

中間まとめとして 11 月 6 日に打合せ会を行い、到達目標 A, B, C の関連を図で表現したものを入れることでガイドラインを整理した。それにあわせて全体を見直しをかけたものを 11 月 7 日の理事会及び 25 日の総会に中間まとめとして報告した。

VI. 今後の予定について

- ・ 新ガイドラインに対応した授業モデルを文系及び理系向けのものを検討するとにしている。